

施策調査専門委員会の検討状況について

【 第47回施策調査専門委員会（R元. 6. 19）】

- ＜議題＞
- 1 役員選出
 - 2 今後の施策評価スケジュールについて
 - 3 平成30年度のモニタリング調査結果について
 - 4 中間評価報告書の作成について
 - 5 次期実行5か年計画に関する意見書の作成について
 - 6 施策懇談会の実施について

＜主な意見等（要旨）＞

【 議題1 】役員選出

- 委員長には吉村委員（東京工業大学准教授）が選任され、副委員長には吉村委員長より土屋委員（東京農工大学大学院教授）が指名された。

【 議題2 】今後の施策評価スケジュールについて

- 当委員会の所掌事項、前期委員会からの引継事項を確認した後、今年度の専門委員会開催スケジュールを確認した。（年4回開催予定）

【 議題3 】平成30年度のモニタリング調査結果について

- 森林のモニタリング調査について、出水ごとの浮遊土砂流出量の比較は、柵の設置前と設置後で比較されているが、柵が設置される前の降水量と設置後のデータも付記したほうがよいのではないか。
- 河川のモニタリング調査について、水質の自然由来の窒素に大気降下が考えられるのならば、大気由来の窒素データを付記したほうがよいのではないか。

【 議題4 】中間評価報告書の作成について

- 目的について、県民への情報提供に加え、次期計画への意見書をまとめるための基礎情報となるという点と、最終評価に向けた一つのステップになっており、全体としては順応的管理の5～10年の時間スケールの中での1サイクルを回すために行うという点が作成の目的になるのではないか。
- 各指標を適用し、計算結果を出すということが入ってくるかと思うが、昨年度検討した指標から詳細を詰めて、データを集めてグラフにすること。
- 第4部『今後に向けて』では、残りの8年間ないし、その後も含めて記載するものとして留意すること。
- 環境の評価はもちろんであるが、県民会議自体（体制等）の評価（うまくいった点、改善点）も必要ではないか。
- 実績に加え、取組に関する評価を第4部に追記できると良い。コミュニケーションチームについては、絵本や紙芝居を作成したことも大事な成果と考えるので、もっとわかりやすくしてもよい。
- 今後、経済評価を実施するという面もあるので、今後に対する意見も記載できると良い。経済評価単独ではなく、アウトカムと絡めて、『経済評価を実施すると良い』と記載するのが理想。

- 構成等は案のとおりで良い。一方、県民会議の体制や各作業チームの取組をもう少しアピールできるような形で県民会議を評価できると良い。次回以降、各部の中身を見ていくこととする。

【 議題 5 】 次期実行 5 か年計画に関する意見書の作成について

- 委員会内でも事前に意見照会をかけていただき、1～2週間時間をとって各委員の意見を吸い上げるというやり方もよい。
- 1回集中的に時間を取ってしっかり議論したい。事務局の都合もあるかもしれないので、時間は調整の上決めていきたい。

【 議題 6 】 施策懇談会の実施について

- 時間の都合上、当日議論できるテーマは3つ程度が妥当ではないか。ただし、議題から外れたテーマについても意見交換ができる時間を設けたほうが良い。
- 経済評価も1テーマとしたほうが良いか。また、税についても多くの方から意見をいただいているので扱うのが良い。ただ、この3つだと枠組みの話ばかりで、実際の水や森はどうなっているかなど議論とならない。昨年決めた指標についても公募委員の方を交えて議論した方がよい。（なぜこの指標に決まったかなど）
- 中間評価の指標についてもできれば指標の計算結果がある程度あると内容が伝わりやすいし、今後の方針を議論する際の参考になる。
- 現状がどのような状況で県としてどう考えているかは各テーマで出てくることだと思う。各議題の対応者（説明者）は事務局と相談・調整の上、準備を進めていただきたい。望むべくは事務局から資料をいただいて対応者が説明するのがいちばんだが、課題ごとに対応は異なるだろう。
- （次期計画への意見書については原案がまだない中で話すこととなるのでハードルが高い。）長期的な話に関しては二の次か。これまでの取組と現状と経済評価の基本的な考え方等についても情報共有し、今後の話を議論していくのかと考える。あえて意見書についてという議題は置かなくても、広く今後の取組程度でもよいのでは。

【 第48回施策調査専門委員会 (R元. 10. 11) 】

- ＜議題＞
- 1 中間評価報告書の作成について
 - 2 次期実行5か年計画に向けた意見書の作成について
 - 3 特別対策事業の点検結果報告書（平成30年度実績版）について
 - 4 水環境モニタリングの追加的調査について

＜主な意見（要旨）＞

【 議題1 】 中間評価報告書の作成について

(1) 報告書全般について

- 第3期の中間評価ではなく、第1期からの12年分の評価である点を「はじめに」あたりで明記した方が分かりやすい。
- P2に施策導入時点の課題とあるが、2期に鹿の話、3期に土木工法が入るなど、P33の左側の項目自身が変わってきている。その説明が第1部の施策導入時点の課題の後に、「その後の課題」として記載があり、事業を組み替えたことについても評価が必要ではないか。
- 単年度の実績報告書は公募委員を中心とした事業モニターの結果を載せているが、事業モニター時の生の声（評価）がこの報告書だと見えない。その部分を反映できないか。直近5年間くらいで行ったモニターの結果・指摘等を反映できないか。事業モニターの結果を入れる工夫が必要か。
- 「はじめに」に中間評価報告書の位置づけがはっきりとは書かれていない。過去の経緯をここに詳しく書く必要はないが、前回の中間評価を行った実績やそれを踏まえて今回新しく評価内容をまとめたということは記載してもよいか。
- P2は神奈川の水環境環境ということで記載があり、施策導入時点の課題は記載があるが、前回の中間評価の情報は原案としては記載がない。もう少し紙面が取れるのであれば前回の中間評価での実績ないし課題をここでおさらいしておくことには意義があるかと思う。
- 「はじめに」は前回のものの年次進行を加えたのみだが、より高次の評価に指標を作って議論したということが、新しく重要な部分で、今までの中間評価よりも総合的に着手した点であり、そのあたり、より進んだ評価に努めました、試みましたという表現を入れてはどうか。
- 最初の指標から何が変わってくるかは入れるべきだと思うが、入れる箇所ははじめにだけだと収まりきれないので、第2部に入れてはどうか。
- 議論のポイントの指標の評価方法の意見に書かれている通りで、今の指標で十分なのか、深めていくかが重要なポイントである。機関ごとに実施してきたことが今後評価していくための指標として何が適切なのかを探る作業をしてきた。これまでに確定できた部分もあるし、今後5年間で確定させる部分もある。それにより20年以降にPDCAを回す基準として使える指標を設定してきた旨を記載してもよいか。
- P30に施策の推進、その次のページに施策評価の方法とあるため、P32の『施策の効果を示す指標の設定について』の次か前に指標設定の経緯や検討経過といった項目をこのあたりに加えてはどうかと考える。それがP35にある順応的管理の実践の一つでもあるかと考える。
- 本文で記載するか、コラムで書くことでなぜ指標にこだわっているかが分かりやすくなるかもしれない。
- 素直に構成の中に入れ込むとP38の『「第3期実行5か年計画」による取組』に記載するのが書きやすいが、読者にとってここまでしっかり読んでいただけるかという疑問が残る。

- 「はじめに」では少なくとも、直近5年のなかで主にこの事業の評価の体制がどの程度進んできたかを記載する。具体には指標を検討して議論し、実際に適用したというところが前回からの進展であるため、その点を数行で説明する。さらに、20年計画の後半に入ってきているため、最終的な事業評価を1次的アウトカム、2次的アウトカム、最終的アウトカムで行えるような体制を作り見通しをある程度書けるようになったという点を記載する。それから、今後としては、まずは残りの5か年の取組で活かしていくことと、20年経過した後も水源環境の維持管理も意識して取りまとめた。そのあたりの位置づけははじめにあった方がよいか。
- 第1部で前回の施策の総括を「3 施策導入時点の課題」の後に「4」として入れておくとよいかと考える。10年間の成果や課題をある程度分かるようにしておくことと読者としてはありがたいだろう。
- 「はじめに」は目次より前におく。表紙の裏は白紙とし、次に「はじめに」、ページをめくって「目次」とし、その後の2ページで第1部の本文を掲載することで、紙面を1ページ追加することができる。
- 県民会議委員の声に関する議論については、事業モニターや県民フォーラムの結果などを第4部に記載することは可能かと考える。
- 毎年の点検結果報告書に書かれている内容と同じものは必要ないと考える。むしろ第3部の評価やその前の個別の課題でそれにかかわる事業モニターの結果を記載してはどうかと考える。モニターを行って、意見やこうした課題があったという記載があれば十分と考える。
- 資料1-3に記載の各評価に対して、裏付けの一つとして事業モニターのコメントを追記できるかもしれない。
- P90以降の事業評価シートで事業モニターでのコメントを記載してもよいかもしいない。位置的にはこのあたりか。ただ、スペースの問題はある。
- 少なくともこれを読んで、年度毎の点検結果報告書にはアクセスできるようにしておく。

(2) 施策の評価結果について

- 指標①と指標②のデータについてクロスチェックすることはできないか。
- 指標②の『D』と『外』の位置づけについて誤解を与えない整理が必要。
- 評価コメントにどの事業により効果が出たかなどを記載してはどうか。
- 指標①の評価コメントについては今後の課題もある場合、数字等が一人歩きしないよう、補足の説明を加える必要がある。
- 指標の解説については、県民向けのものに加え、専門家向けのものもあると良い。
- 事業の取組と成果や課題に関する今後の見通しを記載してはどうか。

(3) 施策懇談会における議論を踏まえた対応について

- 指標⑩に関して、評価コメントはこの通りでよいと考える。いろいろなデータを示すこともできるが、取水制限がないことがその回答となる。内容はあまり複雑にしない方がよい。
- 最終的アウトカムを考えると取水制限の日数自体は情報として掲載するべきではないか。ただ、もう少し情報を出してほしいというのが施策懇談会での意見の真意かと思う。需要量となると社会との関係も含まれてくるので議論がしにくくなるため、参考情報として毎年の降雨量の変動パターンと貯水量程度を示してはどうか。背景としての環境の動きと、どの程度リスクないし余裕があるかという情報を載せておくと、評価書としては意味があると考えられる。

- 指標⑨の取水堰における環境基準の達成度について、達成度ということであれば目標のラインが欲しいと感じる。
- 一般的な基準があったり、過去の書類で数値があるものは、報告書に示すというのは問題なく、むしろそれを示して議論するのが望ましい。
- 目標値を設定するとはなかなか言えない状態なので、中間評価報告書には第4期に向かっての展望として、各指標が今後どのように変化していきそうかなど予想も含めた変動パターンを説明しておくのがよい。
- その上で、県民会議の時に、目標値に関しては議題として取り上げて議論していただいてもよいでしょう。この施策調査専門委員会としては目標値を次期5か年で設定したり、この位の目標値にするというのは環境基準以外では少し難しいというのが皆さんの意見と考える。
- 生物種数など、今回検討はされたが指標として選定されなかったものについて、何かしらのコメントは必要か。
- 2次的アウトカム以降の評価コメントについて、1次的アウトカムの評価結果とのつながりが明確に書かれていないので、かけるところは書きたい。
- 全体総括で、第3期から入った事業についても何か書けないか。あるいはまだ、第3期が始まって間もないためこれからの評価なのかを全体総括に記載したい。
- 4の内容はあまり書きすぎてもいけないので、この原案でいきたいと思う。

(4) 概要版の作成について

- 概要版作成の必要性については、まずは次期計画への意見書の内容や構成を確認いただく。概要版に代わるものになりそうであれば、無理に作る必要はない。

【議題2】次期実行5か年計画に向けた意見書の作成について

- 第4期が終わると施策大綱期間が終了する点が、第3期に向けた意見書と、第4期に向けた意見書で大きく違う点である。次期計画作成にあたっては、基本的な考え方の総論部分に、施策大綱期間終了後の対応を記載したほうがよい。
- 県の方で、ある事業に重点的に力を注ぎたい、或いは課題があつて第3期と同じようには第4期で実施することは難しい、というような話をどこかで伺った方が、この意見書が実態に即したものになると思う。

【議題3】特別対策事業の点検結果報告書（平成30年度実績版）について

- 事業費の実績進捗状況の部分に進捗率と書いてあるが、これは5か年計画のうちの2年分のため、40%が比較する数字である。目安になる割合がないと、進捗率が低く見える。5か年計画の2年分なので、40%が目途になる数字だということを欄外に記載したほうがよいのでは。
- 進捗率が高いものは50数%となっており、低い方は0%となっている。このように目立つ項目については、後のページにある特別対策事業の総括の中で触れたほうがよい。この表を出しているだけでは分からない。読み方について、備考などで記載しておいた方がわかりやすい。
- 総予算に対しての執行率も掲載するとよいだろう。
- 5か年の後半に事業が進展するものがある場合、現時点で必ずしも40%が理想値ではないため、その旨を記載し、補足で説明した方がよい。予定通り予算が執行されていない部分についても補足説明が必要。

- 1番事業の総括コメント最後の部分、返還契約満了後の議論。3期5か年計画中に、返還後の森林の巡視等の仕組みを検討予定と書いてあるが、これは30年度段階で検討予定だったということなのか。現時点で検討予定なのか、詳しく書くべきではないか。
- 活動に関してはアピールして記載した方がよい。例えば、全体総括のところで指標を設定したところ追加されているが、県民会議で10の指標を設定し、それを中間評価等に生かすこととしたと、ここまで書いてもよいだろう。
- 11番事業の最後のページのワークショップの部分、開催したというところだが、そのあとワークショップに寄せられた意見については、という記載だが実際ワークショップの中で、この特別対策事業の実施状況を広く県民と共有をして意見を吸い上げたということが実績として重要である。
- 10番事業は森林のモニタリングと河川のモニタリングでそれぞれ見出しを作り、見やすくした方がよい。
- 環境DNAは昨年度調査で実施しているのならば掲載してよいのではないか。

【議題4】水環境モニタリングの追加的調査について

- アオコの評価も環境DNAも新しい技術の開発に伴う手法のため、積極的に実施する方針が良いが、これまでのデータと対応できるような工夫をしてほしい。
- 魚類の環境DNAについては、ほぼ技術として確立されているものだが、今後のスケジュールの中に記載がない。確立されている技術がある魚類についても、現場の実際のデータとして実用化できるようなスケジュールも必要ではないか。
- 既に確立されているのであれば、それはスタンダードなものであり、相模川水系、酒匂川水系などについてはきちんとデータが取れる。その他のものが今後に向けた技術とするならば、失敗する可能性もリスクとしてあるので、確実なデータがとれるという意味でも魚類に関しては調査いただきたい。
- アオコの衛星画像を用いた評価は、これまでの定点観測のアオコ発生状況だけでは見えてこない環境改善も場合によっては見えるかもしれない。うまくいけば第4期の最初と最後での水質改善の状況が水生動物でも観測できるのではないか。